

事業報告書

2022 年度

(2022 年 6 月 1 日～2023 年 5 月 31 日)

一般財団法人 日本女性財団

ご挨拶

～2022年度事業報告に際して～

2020年夏に設立された一般財団法人日本女性財団の活動は、今夏で満3年を迎えます。

最初はコロナ禍で困窮する女性たちの支援をしようと4名の理事と22名の発起人の資金で立ち上げ、多くの方々や企業、組織の協力を得ながら徐々に体制作りと事業構築をしてきました。

2022年度からは、独立行政法人福祉医療機構 WAM の助成金を得て、地域で女性たちの支援をつなげるフェムシップドクターのインフラ構築をしていくことを目指し、医療、検診、相談を女性支援団体と連携して女性たちに提供する事業を行っています。

財団本体の主な事業としては、2022年8月にフェムシップの日イベント、2023年2月のフェムシップドクターの日イベント、3月には第6回産前産後ケア子育て支援学会の主催をいたしました。また、3つの委員会と2つのチーム（ヘルスリテラシー向上委員会、プラットフォーム委員会、政治経済人材育成委員会、ファンドレイジングチーム、広報PRチーム）がそれぞれの活動を行って来ました。ホームページに財団理念の紹介とともに、活動紹介、人材や企業の紹介をしています。また、政策勉強会を行い、組織や企業と連携していくつかの政策提言を行いました。他に、第1回SDGs 岩佐賞への応募と受賞、空き家再生による女性のシェアハウスの地域活性化と自立支援事業の試みなど、ユニークな事業も行っていきます。

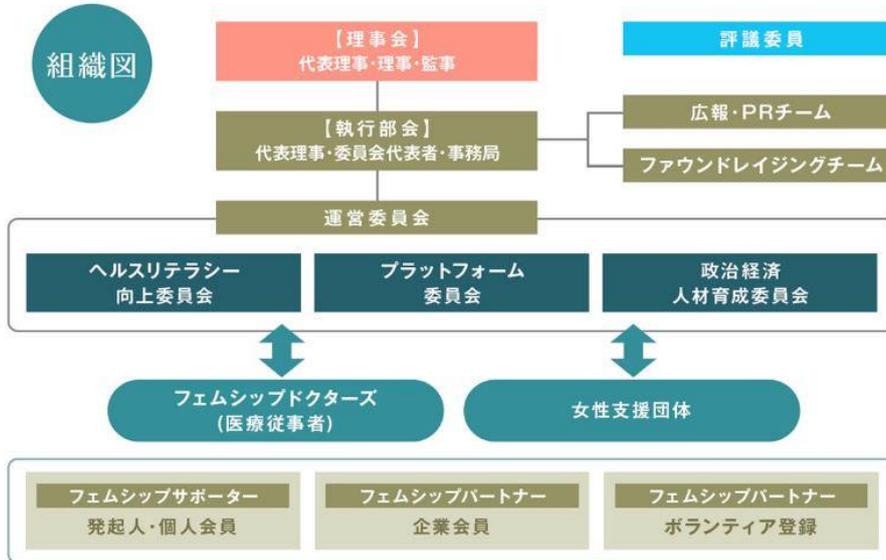
2023年度は、財団の組織体制整備を行いながら、フェムシップドクターズを中心とした地域プラットフォーム構築事業、企業や組織との連携事業、女性の拠点や調査研究も、益々充実していくよう皆で取り組みたいと思います。女性の政策制度への提言も、若い女性の医療費補助や奨学金給付などを中心に進めていきたいと思っています。

今後とも、皆様からのご理解とご支援をお願い申し上げます。

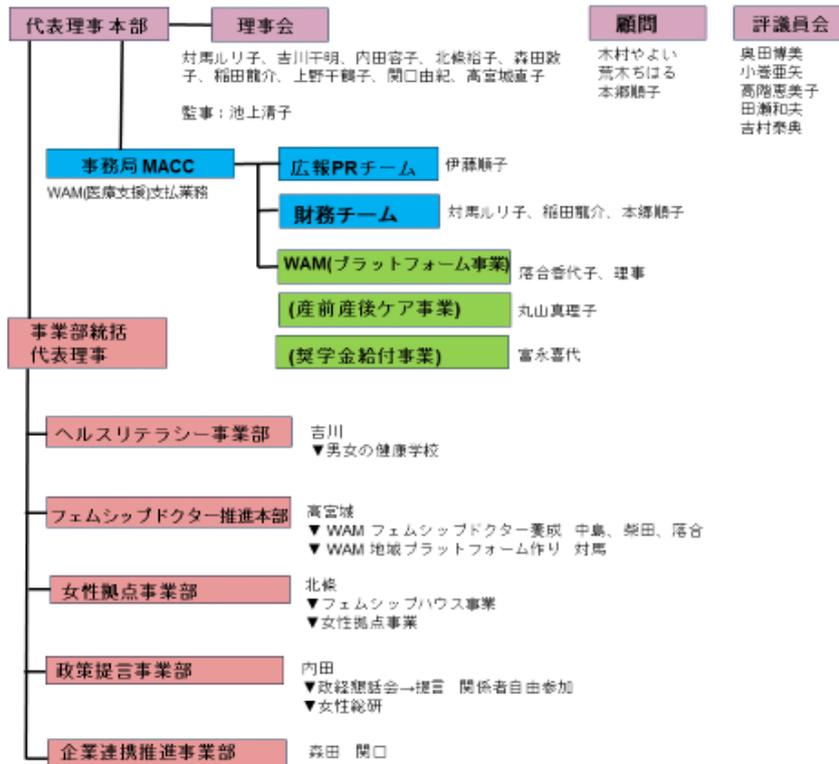
2023年8月 一般財団法人 日本女性財団
代表理事 対馬ルリ子

① 財団の組織（～2023年6月）

組織図



新組織図 (案)



② 財団の年中行事

■ 2022年8月20日 フェムシップの日



(令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業)

●「8月20日は #femship の日」あなたが誰かの船になる日

●会場: 東京都港区六本木ヒルズハリウッドプラザ内「ハリウッド美容専門学校」



◆女性支援団体ブース出展一覧 @六本木会場 (敬称略・順不同)

- ・特定非営利活動法人ピッコラーレ
- ・一般社団法人 COCO PORTA
- ・産前産後訪問ケアサポート「リラコム」
- ・公益財団法人ジョイセフ
- ・特定非営利活動法人 BOND プロジェクト
- ・特定非営利活動法人 ReMind

◆ご協賛企業一覧 (敬称略・順不同)

- ・新日本製薬株式会社
- ・ラインファーマ株式会社
- ・ハリウッド株式会社
- ・有限会社ウーマンズサポート関口
- ・株式会社フェムゾーンラボ
- ・日本美容創生株式会社
- ・サラヤ株式会社
- ・株式会社サンルイ・インターナショナル

③ 独立行政法人 福祉医療機構 WAM の助成事業(令和4年度～3年間のうち初年度)

■「困窮する女性たちを救済するフェムシップドクターのインフラ構築」

●目的:

1. 困窮する女性を救済するフェムシップドクターの養成と増員
2. 困窮した女性たちをフェムシップドクターにつなぐ医療支援事業
3. 困難な状況にある女性たちがアクセスするプラットフォームの構築

●活動内容:

- ・年間 医療支援事業(検診ギフト)
- ・年間 プラットフォーム構築事業(支援先を検索するためのサイト構築、支援先のリアルネットワークを構築するためのプラットフォーム連絡会の開催)初年度は岩手と東京。
- ・イベント開催(フェムシップドクターの周知活動)
- ・アンケート事業(実態を知る活動)



全国のフェムシップドクターズ

(2023年7月現在 43名)

| | | | |
|--------|--|-------|--|
| 北海道 2 | 高棟レディースクリニック 坂本江美 ウィメンズクリニック札幌 坂本正誠/坂本 江美 | 富山県 3 | 女性クリニックWe! TOYAMA 鮫島梓 女性クリニックWe! TOYAMA 樋部恭子 吉本レディースクリニック 吉本裕子 |
| 青森県 2 | 健生病院産婦人科 齊藤美奈 | 長野県 1 | 信州大学医学部 両産期のこころの医学講座 村上 寛 |
| 岩手県 6 | 盛岡医療生活協同組合 川久保病院 加藤 幸 西松園内科クリニック 滝川佐波子 いしどりや眼科 玉木光子 医療法人工藤医院 岡瀬徳光 村井産婦人科小児歯科医院 村井正俊 | 岐阜県 1 | 広瀬内科クリニック、いとうレディースクリニック 廣瀬玲子 |
| 東京都 12 | 対馬ルリ子女性ライフクリニック 石山尚子 フィズレディースクリニック田町 内田美穂 女性ライフクリニック新宿 早田輝子 丸の内の森レディースクリニック 宋美玄 成城せとくちクリニック 瀬戸口志保 対馬ルリ子女性ライフクリニック 対馬ルリ子 土肥レディースクリニック 土肥 聡 医療法人社団碩和会 下平レディースクリニック 中島由美子 アピアランスビューティクリニック 堀口和美 EASE女性のクリニック 丸山真理子 アットホーム表参道クリニック 宮尾益理子 医療法人社団進歩会 浜松町ハマサイトクリニック 吉形玲美 | 静岡県 1 | 船津クリニック 船津裕子 |
| 神奈川県 1 | 女性医療クリニックLUNA横浜元町 関口由紀 | 愛知県 2 | 一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター (NFHCC) 長江美代子 咲江レディースクリニック 丹羽咲江 |
| | | 滋賀県 1 | 医療法人真心会 南草津野村病院 山崎ゆか |
| | | 京都府 1 | 中部産婦人科 山崎ゆか |
| | | 大阪府 2 | 二宮レディースクリニック 二宮典子 医療法人オーク会 船曳美也子 |
| | | 岡山県 3 | 岡山中央病院セントラルクリニック伊島ウィメンズメディカルセンター 金重恵美子 みやびウロギネクリニック 井上遊 岡山大学病院 泌尿器科 小林知子 |
| | | 山口県 1 | 針間産婦人科 金子法子 |
| | | 愛媛県 1 | 富永ペインクリニック 富永喜代 |
| | | 佐賀県 1 | 医療法人 days すこやか女性クリニック 西岡智子 |
| | | 長崎県 2 | やすひウイメンズヘルスクリニック 安日泰子 医療法人社団 橘江産婦人科医院 池田陽子 |
| | | 沖縄県 1 | Naoko女性クリニック 高宮城直子 |

婦人科 30、泌尿器科 4、麻酔科 3、内科 2、眼科 1、精神科 1、薬剤師 1、看護師 1

検診ギフト事業

概要：

様々な困難な状況により医療と繋がりを持たない女性に「検診無料受診」をプレゼントする

目的：

- ・検診受診をしていない女性たちの健康実態を調査する
- ・受診をきっかけに医療（医師）と繋がりを持つことで、女性たちのヘルスリテラシーを上げる

医療を無料提供することを宣伝は出来ないため、きっかけは「話の中での声掛け」が基本の方法となる

▼クリニックの患者様 | 検診を受けたことがない、しばらく検診を受けていない

▼支援団体からのご紹介 | 保険証がない、お金がない、婦人科へ行ったことがない、シングルマザー、性病をうつされたかもしれない、妊娠したかもしれない、妊娠しているが受診したことがない、中絶したい

妊娠に関する受診やビル処方、財団独自の寄附やクラウドファンディング資金「フェムシッブ医療費」で支援している。

★令和4年度の受診実績：112件（目標 250件）

重篤な状況はなかったが、健康上の悩みや不安を抱えながら1年以上経過している人がアンケート回答者の65%超あった

申込件数 183件（重複含）中
71件が受診に至らなかった

- ・電話予約に至らない
- ・期限切れ
- ・メールで促しても予約に至らない

| 内容 | 相談 その他 | 子宮頸がん 細胞診 | HPV検査 | 子宮卵巣 エコー | 一般血液 検査 | 乳がん検 査 | 骨密度 | 計 |
|--------------|-----------|--------------|-------|-------------|------------|-----------|-----|-----|
| 組み合わせ せ対応 | 57 | 27 | 14 | 51 | 17 | 6 | 28 | 200 |
| メイン 受診内容 | 25 | 25 | 2 | 14 | 13 | 6 | 27 | 112 |

「岩手リアルプラットフォーム連絡会」を花巻市で開催

●「岩手リアルプラットフォーム連絡会」

女性たちに必要な情報を必要なタイミングで繋がる地域を目指す
医療関係者、各女性支援団体との連携を図り、女性が健康で生きやすく、活躍できる地域を目指す

●2022年11月22日(火)

●参加人数：49名(岩手県保健福祉部子ども子育て支援室、花巻市長、花巻市地域振興部、岩手県警察本部を含む)

司会進行 西松園内科医院 副院長 滝川佐波子

「岩手プラットフォーム連絡会立ち上げに至る想い」

いしどりや眼科 院長 玉木 光子

「女性たちを救済する医師～Femship Doctors～」

「東北のフェムシップドクターとして」

津軽保健生活協同組合健生病院 副院長 齋藤美貴

花巻市長 上田 東一様 ご挨拶

講演「岩手におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの支援

～“これまで”と“これから”～

講師/岩手県立大学看護学部学部長 福島裕子

講演「警察における被害者支援」

講師/岩手県警察本部警務部県民課被害者支援室

課長 佐藤義一 佐藤義一

岩手県保健福祉部子ども子育て支援室 ご挨拶

特命参事兼次世代育成課長 佐々木 浩一



メディア掲載 2022年11月23日 岩手日報、2022年11月24日 岩手日日新聞

「東京リアルプラットフォーム連絡会事前意見交換会」

●2022年12月7日(水)

●東京都健康プラザハイジア(東京都新宿区)

●参加人数：23名(リアル11名、オンライン12名 東京都・総務局人権部・福祉保健局少子化対策部・福祉保健局企画部・大田区・文京区・墨田区含む)

「東京リアルプラットフォーム連絡会」



●「東京リアルプラットフォーム連絡会」

●2023年1月11日(水)

●東京ウィメンズプラザ B1 ホール(東京都渋谷区)

●参加人数: 93名(医療関係者19, 行政12, 団体16, 大学関係者4, 議員2, 企業30, メディア10 東京都含まず: 東京都知事、総務局人権部、福祉保健局少子化対策部、教育庁、警視庁)

プログラム

「東京プラットフォームがなぜ今必要か」東京のフェムシッピングドクターとして
一般財団法人 日本女性財団東京プラットフォーム連絡会実行委員長 /
産婦人科医 中島 由美子

来賓ご挨拶 東京都知事 小池 百合子氏

基調講演 一般社団法人 東京産婦人科医会会長 山田 正興氏

東京都の取り組み紹介

警視庁 刑事部 管理官(性犯捜査担当) 一木 由美子氏

東京都 総務局 人権部 被害者支援連携担当課長 乗木 亜子氏

東京都 福祉保健局 少子社会対策部 事業連携担当課長 青山 佳司氏

東京都 教育庁 都立学校教育部 学校健康推進課長 上田 直子氏

シンポジウム

日本女性財団 代表理事 対馬 ルリ子

特定非営利活動法人 医療政策機構 坂元 晴香氏、鈴木 秀氏

都立墨東病院 産婦人科医 部長 兵藤 博信氏

日本女性財団 フェムシッピングドクター 本会実行委員長 中島 由美子

メディア掲載 2023年1月24日 時事メディカル医療ニューストピックス



④ 委員会活動

■ヘルスリテラシー向上委員会「8人の女性のヘルスケアの伝道師」

ヘルスリテラシー向上委員会

「女性のヘルスケアの伝道師」の動画を制作。
企業や団体にお話に伺います。お声がけをお待ちしております！



https://www.youtube.com/watch?v=LI65-6Rf_FA

■プラットフォーム委員会

・委員長 丸山真理子 → 第6回日本産前産後・子育て支援学会 実行委員長

・副委員長 落合香代子 → WAM 事業推進

・副委員長 河合麻美 → 妊娠中・出産後の母体の身体トラブル実態調査

■政治経済人材育成委員会

勉強会「クオータ制を学ぶ ～女性が生きやすい社会を実現するために～」

- 日時: 2022年7月23日(土)17:00~18:00(オンライン)
- 講師: 上智大学法学部教授 三浦まり氏
- 参加者: 47名



日本女性財団 主催

クオータ制を学ぶ

“女性が生きやすい社会”を実現するために

講師: 上智大学法学部教授 三浦まり氏

参加費 無料

クオータ制ってなんだろう？ 国内外の現状は？

私たちの生活をより良いものにするためには、さまざまな声を聴き、動かしていく必要があります。そのための方法の一つがクオータ制です。

「クオータ制ってなんだろう?」という方も、「知っているけれど、日本の現状や海外事例を知りたいな」という方も、ぜひ、両方の方々にもお声がけの上、ご参加ください。

7月23日(土) 17:00~18:00

@オンライン ※参加費0円Zoomアプリは、講演会の前日に参加者の皆様へメールにてお知らせいたします。

※ 会場: クオータ制に関心のある方(一般、学生、メディア、産官・産学)にて関心ある方々

※ 申込方法: 以下のURL(People ピークアップ)またはQRコードよりお申し込みください。(Zoomからのお申し込みにはユーザー登録が必要です。)

<https://japan-women-foundation-quotas-2022.peatix.com/>

講演会についての連絡先
一般財団法人 日本女性財団 事務局(政治経済人材育成委員会 宛)
info@japan-women-foundation.org

日本女性財団

政治経済委員会活動

2022年

7月22日(金) 産後ケアに関する要望書を高市早苗議員に提出

11月7日(月) 高階恵美子衆議院議員との座談会(オンライン)

2023年

5月25日(木) 政策提言懇話会

※自民党委員会、女性の生涯の健康に関するプロジェクトチーム
「ライフコースアプローチに着目した健康支援策の促進」について

Copyright© 2022JapanWomenFoundation All Rights Reserved

- 2023年4月25日に Baroness Barker 氏(英国 国会議員)との面談を行った。

⑤ 女性拠点支援のクラウドファンディング



「女性が安心して自立に歩みだせるシェアハウス」を青森県八戸市にある「白銀ハウス」で、生活環境整備のためのクラウドファンディングを施行。

●2023年2月～3月 目標額 300万に対し、531万円達成。

⑥ 受賞 2022年9月 第一回 SDG 岩佐賞受賞

●第1回「SDGs JAPAN SCHOLARSHIP 岩佐賞」医療の部 団体を受賞しました。(副賞 300万円)

●SDGs JAPAN SCHOLARSHIP 岩佐賞とは

公益財団法人 岩佐教育文化財団により、医療・教育・福祉・環境・平和・芸術・農業などの分野でめざましい功績を残した団体・個人、および課題解決に取り組んでいる団体・個人を支援する授与活動。

つなげよう、地球の未来。

第1回「SDGs岩佐賞」受賞者発表!

目的の達成に真摯に取り組む、SDGs達成に向けて活動している人々を応援したい。そんな思いから、公益財団法人岩佐教育文化財団が2022年に創設したのがSDGsジャパンScholarshipの授賞(「SDGs岩佐賞」)です。第1回の応募総数は約125件、厳正な審査を経て、全部門の受賞者が決定しました。すべての受賞者の活動詳細と喜びのコメントは、第1回SDGs ACTIONで掲載しています。来月号からは、第2回「SDGs岩佐賞」のネットワーが受け付け開始。岩佐教育文化財団はこれからも、SDGs達成のために地道な努力を続けるみなさんを応援し続けます。

岩佐教育文化財団
代表理事 岩佐 実次

| | | | | |
|--|--|--|---|------------------------------|
| <h3>医療の部</h3> <p>24時間365日 心臓血管疾患を患わずに人々と地域を守るチーム医療</p> <p>5Gネットワークを用いて、遠隔・リアルタイム、緊急時を要する救急搬送と治療につながる救急医療の発展を</p> <p>世界の医療団 日本保健医療活動</p> <p>国際的なSDGs普及啓発活動「ワールド・フェスティバル for Youth」</p> <p>ジェンダー視点を取り入れた防災教育</p> | <h3>教育の部</h3> <p>地域の方の居場所や生きがいとなる民間図書館</p> <p>進化した演劇のまちづくり</p> <p>「言葉」の宅配便事業及びPRコンサート</p> <p>第九号者3024 田代 啓吾 先生</p> | <h3>福祉の部</h3> <p>地域の方の居場所や生きがいとなる民間図書館</p> <p>進化した演劇のまちづくり</p> <p>「言葉」の宅配便事業及びPRコンサート</p> <p>第九号者3024 田代 啓吾 先生</p> | | |
| <h3>環境の部</h3> <p>最新の電子ブロック「もったいない!」プロジェクト</p> <p>【世界最大級の電子ブロックの場】でのサイエンス展覧会</p> <p>生活困窮者の相談・支援</p> <p>教育を通じた難民の受け入れ活動</p> | <h3>平和の部</h3> <p>紛争・災害の影響を受ける国における難民とホストコミュニティの協働事業および日本国内での平和教育の実践</p> <p>難民・避難者への支援</p> <p>岩佐教育文化財団</p> | <h3>芸術の部</h3> <p>難民のあるアーティストの発展支援事業</p> <p>「言葉」の宅配便事業及びPRコンサート</p> <p>第九号者3024 田代 啓吾 先生</p> | <h3>農業の部</h3> <p>世界から信頼をいただくための自然栽培農産物の取り組み</p> <p>空飛ぶ救急医療団</p> | <h3>特別枠</h3> <p>空飛ぶ救急医療団</p> |

第2回「SDGs岩佐賞」は、11月からエントリー開始!

2022年11月7日～12月6日

公益財団法人 岩佐教育文化財団

https://sdgs-iwasazaidan.com

⑦ 第6回 日本産前産後ケア子育て支援学会 主催

- 会場: 東京大学伊藤国際学術研究センター(東京都文京区)
- テーマ:『多様なつながり生む子育てニューノーマル～多職種連携～』
- 学会長: 対馬ルリ子
- 副会長: 春名めぐみ
- 実行委員長: 丸山真理子
- 参加者数: 351名

日本産前産後ケア・子育て支援学会は、妊娠、産後ケア、子育て支援を学ぶ医師や助産師が中心となり、行政、医療や福祉関係者、健康育児産業が協働して、これからの妊娠出産子育て支援を推進するものです。日本が未曾有の少子化に対面している現代、女性が健康を維持しながら社会活躍し、かつ育児も楽しく継続していくためには、地域で母児を守り育てる意識と切れ目ない支援体制が必要です。「多様なつながりが生む子育てニューノーマル～多職種連携～」をテーマに掲げ、新しい出産子育てネットワークの構築を提案しました。

第6回 日本産前産後ケア・子育て支援学会
Japan Society of Child Bearing & Rearing Support

テーマ 多様なつながりが生む子育てニューノーマル
～多職種連携～

会期 2023年3月25日(土)

会場 東京大学伊藤国際学術研究センター

会長 対馬 ルリ子
一般財団法人 日本女性財団 代表理事

副会長 春名 めぐみ
東京大学大学院医学系研究所
母性看護学・助産学分野 教授

実行委員長 丸山 真理子
日本女性財団プラットフォーム委員会 委員長

第6回日本産前産後ケア・子育て支援学会の一般演題を募集致します。
採択演題は学会プログラムの一部(オンデマンド発表)に選定させていただきます。
優秀演題には学術奨励賞の授与を予定しております。
以下 Topic より演題用紙をダウンロード頂けます。
<http://kosodate.umin.jp/>

演題募集期間(予定) 2022年9月30日(金)～11月30日(水) 24時迄

参加費: 事前登録 5,000円 / 当日登録 7,000円

【学会ウェブサイト】 <http://kosodate.umin.jp/>

第6回日本産前産後ケア・子育て支援学会事務局
Tel: 03-5312-7688 Fax: 03-5312-7687 E-mail: kosodate@academiasupport.org
〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-24-7-909 一般社団法人アカデミアサポート内

第6回 日本産前産後ケア・子育て支援学会
3月25日(土) 9:30-17:00 東京大学伊藤国際学術研究センター@本郷三丁目

／ランチョンセミナー／ 12:40 - 13:30

「忘れないで! ママの健康」
- 検診を受けよう -

▼サンリオピューロランド館長 小巻亜矢氏と大会長 対馬ルリ子とのトークセッション▼
産婦人科医からのメッセージと自身も母親でがん罹患経験者であり企業のTOPでもある立場からのメッセージをいただきまます
医療従事者ももちろん、女性であるが故にでも届けたい内容です

小巻 亜矢
株式会社サンリオエンターテインメント 代表取締役社長
サンリオピューロランド館長
東京大学大学院教育学研究科修士課程修了
1983年(南) サンリオ入社
2015年サンリオエンターテインメント取締役就任
2016年サンリオピューロランド館長就任、2019年6月より現職
子宮頸がん予防啓発活動「ハロースマイル(HelloSmile)」委員長
NPO法人ハロードリーム実行委員会代表理事
一般社団法人SDGsプラットフォーム代表理事

対馬 ルリ子
第6回日本産前産後ケア・子育て支援学会 大会長
一般財団法人 日本女性財団 代表理事
医療法人社団 ウィメンズ・ウェルネス 理事長
女性ライフクリニック 総務、新着 産婦人科医
1984年 東京大学医学部産婦人科学専攻入局
独立産科助産院産後ケアセンター立ち上げを経て
2002年 ウィメンズウェルネス総務クリニック(女性ライフクリニック)創設を期す

司会 吉川 千明
美容家・オーガニックスペシャリスト
企業内研修、インテリアの仕事を経て1991年起業
1997年日本初のジュエリーの店舗経営を立ち上げ
2000年オーガニックコスメの、セレクトショップを開設
日本で最大のナチュラルコスメの事業に成長させた
ナチュラルオーガニック製品のためのPR・教育・デザインを専門とする

9:00開場
オープニングに
チェロ演奏も!

第6回日本産前産後ケア・子育て支援学会 事務局 TEL: 03-5312-7686 E-mail: kosodate@academiasupport.org

⑧ 委員や法人会員との連携事業

令和4年度 独立行政法人 福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
#1万人ママの声を聞かせて

主催：一般財団法人 日本女性財団
協力：NPO法人 ReMind
産後リハビリテーション研究会
リハビリママ&パパの会・WITHs
<https://sangomama.info-web.site/>

- アンケート名：「#1 万人ママの声を聞かせて」
- 調査内容：妊娠中や出産後に母体を感じたトラブルについて
- 調査期間：2022年4月30日～5月31日
- 回答数 6,505人(出産回数 11,570回)
- 共催：NPO 法人 ReMind(本社：埼玉県さいたま市、代表理事：河合麻美[当財団発起人])

91%の女性に妊娠出産時の身体トラブルあり

理学療法士、産婦人科医、助産師等、妊娠中出産後の母体身体トラブルに関わる専門職はじめ議員等を中心に多職種でチームを立ち上げ、特設サイトにて協力者を募集し、協力者有志と共に SNS 拡散、全国各地でチラシ配布などアンケートを周知、出産経験のある女性 6505 名(出産件数 11,570 件)の声を集めました。

アンケート結果から、出産経験のある 91%の女性が妊娠中出産後に腰痛、尿失禁、骨盤痛等なにかしらの身体トラブルを経験しており、妊娠中に現れた身体症状としては腰痛(70.6%)、恥骨痛(44.7%)、尿もれ(35.3%)の順に多く、仙腸関節痛、股関節痛、肛門症状、背中・肋骨の痛み、手足のしびれ等があった。また、出産後は腰痛(63.6%)、尿もれ(44.7%)、肩の痛み(35.3%)に次いで、乳腺炎、手首の痛み、肛門症状、首の痛み、恥骨痛、尾骨痛、子宮脱など様々な症状がみられたが、実際に医療機関に受診した方は15%となっており85%が受診しなかったと回答しました。また、妊娠中出産後の身体トラブルは家事、育児、職場復帰への不安、精神状態低下、二人目妊娠の躊躇とも大きく関連しており、母親自身だけでなく家族や職場などにも支障が出ていることが分かったほか、身体トラブルがあった方の約半数が「意味もなく不安になった」「社会から離れるようで孤独に感じた」と回答しており、「自分自身を傷つけるという考えが浮かんだ」自傷念慮も約1割いました。心と体は切り離せない関係であり、心身共に母体のケアをする必要があると考えられます。

アンケートの結果を受け産後ケアに関する要望書を内閣府・厚労省・自民党へ提出

「妊娠中・出産後の母体の身体トラブル実態調査」アンケートの結果を元に、まずは身体トラブルを母親自身が早期に気づき、必要なケアをするため、1. 母子健康手帳への産後健診時の母体身体トラブルに関するアセスメント追加、2. 産前産後の母体の身体ケアの充実(セルフケア指導・医療行政機関でのケア・産後ケア事業拡充等)に関して、小川かつみ参議院議員の紹介のもと、自民党政務調査会長 高市早苗議員、内閣府大臣政務官 宮路拓馬議員、厚生労働大臣政務官 深澤陽一議員、自民党厚生労働部会長 牧原秀樹議員へ要望書を提出しました。

協力のテクノロジー

NPO 法人法成立の立役者 松原明さんによる WAM 事業成功のためのコーチング「協力のテクノロジー関係者の相利をはかるマネジメント講座」が1年間、財団関係者を対象に提供されました。たくさんのステークホルダーに動いていただくためにはどうしたらよいか、のスキルを学びました。

